

栽培情報 12月号 ～麦中間管理作業について～

令和7年12月18日
JA みづま
久留米普及指導センター

今年の麦播種は11月15日頃から始まりました。11月中旬以降の降雨が少なかったため、播種は順調に進みました。また、播種後の気温が高かったため出芽も順調です。

今後は、排水対策及び雑草防除を徹底するとともに、生育状況に応じて麦踏みや土入れ等の中間管理作業を徹底しましょう。

1 追肥 下表の施用時期を参考に、遅れないように適期に実施しましょう！

追肥一発肥料による追肥は、施用時期が極端に遅れると倒伏につながる恐れがあるので、遅播きのほ場も施用時期を守りましょう。

なお、出芽が1月以降に遅くなったり、深播き等で出芽の揃いが悪い場合は、追肥一発肥料を使用せず、2月中下旬頃生育に応じて、「NK2号」もしくは「ちくごのめぐみ444」を10a当たり10～20kg程度施用しましょう。

品種名	肥料名	(10a 当たり)	
		1回目追肥 (1月中下旬)	2回目追肥 (2月中下旬)
イチバンボシ	麦追肥一発2号	20kg	—
	分施体系 ※	20kg	10kg
はるしずく	麦追肥一発2号	20kg	—
	分施体系 ※	20kg	10kg
シロガネコムギ	麦追肥一発2号	40kg	—
	分施体系 ※	30kg	10kg

※分施体系で追肥する場合は、「NK2号」もしくは「ちくごのめぐみ444」を使用する。

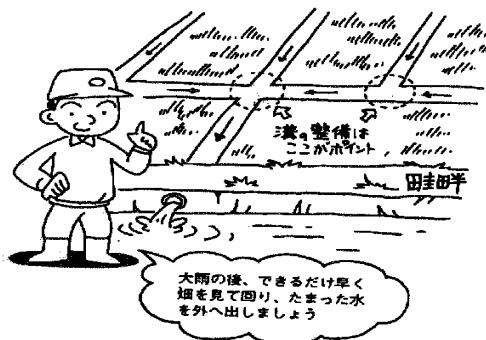
2 麦踏み・土入れ

○麦踏み（分げつ促進・倒伏防止・早期茎立ち抑制）

- ・本葉3～4枚頃から茎立期（2月下旬頃：草丈20～25cmまでが目安）までに3～4回。
- ・土入れも同時に行う場合は、「土入れ→麦踏み」の順で行う。
- ・晴天で土が乾燥し、茎葉水分が少ない午後に行う。

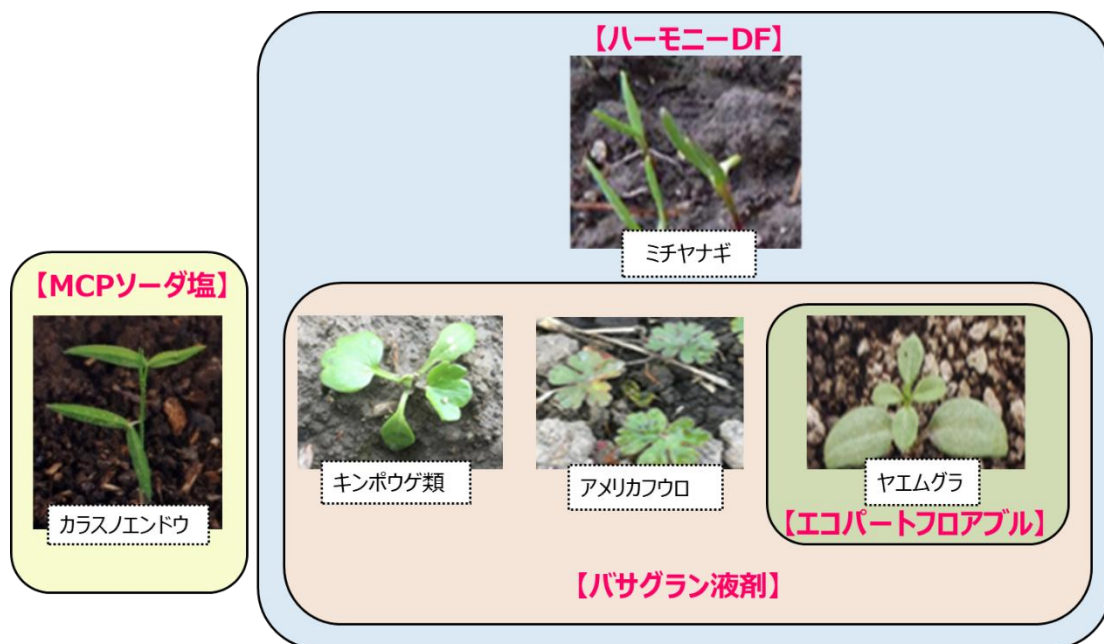
○土入れ（倒伏防止・雑草防除・表面排水促進）

- ・本葉3～4枚頃から茎立ち1週間後頃までに3回程度（1月上旬中旬、2月上旬、3月上旬頃）
- ・1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育に伴って土入れの量を増やす。
- ・晴天で土が乾燥している時に行う。
- ・麦踏み直後には土入れしない。（麦が埋もれる）
- ・追肥後に土入れをすると肥料の効果が安定します！
- ・土入れ後は、畝溝と枕の横溝の交差部分の溝さらえ、排水口との連結を行い雨水がほ場外へ流れ出るようにする。



3 雑草防除 発生した雑草に応じて、茎葉処理除草剤を選択しましょう。

薬剤名	対象雑草	使用時期	10a 当たり 使用量	備考
ハーモニ細粒剤 F	スズメタマ ホウ、 一年生 広葉雑草	播種後～麦 3 葉期まで (雑草発生前～発生始期)	4～5kg	・ハーモニ細粒剤 F とハーモニ DF はいずれか 1 回しか使用 できない
ハーモニDF	スズメタマ ホウ、 カサノコ 一年生 広葉雑草	播種後～節間伸長前	5～10g (水 70～100L)	・タデ類に効果が高い ・スズメタマホウ、ヤムグラ、カサノ コ、ミヤナギは 10g/10a を目安
		節間伸長開始期～ 穂ばらみ期まで (収穫 45 日前まで) <u>※はだか麦・大麦は節間伸長前 までしか使えません</u>	3～10g (水 70～100L)	
バサグラン 液剤	一年生 広葉雑草	生育期 (はだか麦・大麦：収穫 90 日 前まで) (小麦：収穫 45 日前まで)	100～200ml (水 70～100L)	・キンポウゲ類に効果が高い ・高温、晴天時に効果が高い
エコパート フロアブル	一年生 広葉雑草	節間伸長開始期まで (収穫 45 日前まで)	50～100ml (水 100L)	・ヤムグラに効果が高い ・散布後、葉に白斑、白点など が生じるが、その後の生育に は影響はしない。
MCP ソーダ塩	一年生、 多年生 広葉雑草	幼穂形成期 (収穫 45 日前まで)	200～300g (水 70～100L)	・カサノコに効果が高い ・気温が高いほど効果が安定 ・分げつ抑制のおそれがあるた め、 <u>茎数を十分確保してから 散布(目安：3 月上旬)</u>



- 雑草が大きくなる前に対策を！
- 農薬の散布にあたっては、近隣にある他作物、住居などに注意しましょう。